

第 1 回原子力委員会定例会議議事録（案）

- 1 . 日 時      2 0 0 4 年 1 月 6 日（火） 1 4 : 0 0 ~ 1 4 : 3 5
- 2 . 場 所      中央合同庁舎第 4 号館 7 階 共用 7 4 3 会議室
- 3 . 出席者      近藤委員長、齋藤委員長代理、木元委員、町委員、前田委員  
                 内閣府  
                 永松審議官、藤嶋参事官（原子力担当）

4 . 議 題

- （ 1 ）委員長代理の指名について
- （ 2 ）年頭に当たっての所信
- （ 3 ）原子力関係予算総表（速報値）について
- （ 4 ）町委員の海外出張について
- （ 5 ）その他

5 . 配布資料

- 資料 1          年頭に当たっての所信
- 資料 2          平成 1 6 年度原子力関係予算総表（速報値）
- 資料 3          町委員の海外出張について
- 資料 4          第 4 3 回原子力委員会定例会議議事録（案）

6 . 審議事項

- （ 1 ）委員長代理の指名について

標記の件について、近藤委員長より原子力委員長代理として齋藤委員を、原子力委員長代理が海外出張等で不在の場合の委員長代理として町委員を指名した。

- （ 2 ）年頭に当たっての所信

標記の件について、近藤委員長より資料1に基づき説明があり、以下のとおり各原子力委員より発言があった。

(齋藤委員長代理) 原子力はいろいろな事故やトラブル等があったが、国民との対話を通じて、原子力が自然体で受け入れられる状態を作っていければ良いと思う。合理的な核燃料サイクルの実現は原子力委員会の目標であるが、長期にわたる計画だけではなく、現実的、合理的に進めていくことが今の状況に合っているのではないかと考えている。利用分野の拡大ということでは、現在、原子力エネルギーは発電としての利用が主体であるが、アメリカやフランスでも注目されている高温ガス炉を使った水素製造等の分野も積極的に進めていくべきではないか。また、資料1の2ページ2. 重点政策目標の(3)について、放射線や核反応は様々な場面で国民生活に役立っている。また、放射線は物質の構造やタンパク質の構造を探索する手段として重要な役割を果たしており、いわゆる重点四分野であるナノテクノロジーやバイオテクノロジーに原子力も役に立っていることを強調していきながら、皆様のご理解をいただき、原子力予算の確保をしていきたいと思う。

(町委員) 研究者としての経験や国際機関での経験を日本の原子力政策に役立てたいと思う。原子力委員会としては核燃料サイクルが一番大切であると考えるので、民間の方々や研究者の方々、政府と連携を取りながら、一番良い方法でやっていかなければならないと思う。資料1の2ページ目にいくつか重要項目が記載されているが、原子力発電の経済性というのは非常に重要であると思う。外国と比較して、日本の電力は価格が高いため、民間の方々とも協力をして、改善しないといけないと思う。国際協力に関しては、原子力利用による水素の製造や、アジアの原子力協力でも、日本のリーダーシップを進めていけるところがあると思う。GEN-4 (第4世代原子力システム)も大切だが、アメリカ主導で日本はそれに参加していくといった形である。日本がリーダーシップを取り、他の国々と協力しているFNCA (アジア原子力協力フォーラム)のように、日本の存在感を国際社会の中でもっと示していくべきではないか。IAEAでは日本は20%も資金を出している。IAEAの活動を日本として効果的に活用していくべきではないかと思う。IAEAは核不拡散の問題も担当しているので、そういう観点からも、効果的に連携していきたい。資料1の2ページ目には、放射線利用に関して記載されているが、この分野は生活に密着してお

り、非常に役に立っている。特に最近の重粒子によるがん治療は非常に成果をあげており、日本が世界のトップランナーとなっている。このようなものを、日本がリーダーシップをとって国際的に広めていけば、日本のやってきたことが高く評価されると思う。放射線利用は医学だけではなく、農業や産業等に広く使われているため、原子力は生活に密着したところで役に立っていることを国民の皆様理解していただければ、原子力全体に対する理解にとってプラスになるのではないかと。研究開発では、税金を使う以上、社会、経済のニーズに合った研究に重点をおき、成果を実際に使う側と連携しながら役に立つものとしなければならない。もちろん基礎的な研究では、ノーベル賞が出るくらいの独創的な研究を育てていくことが必要であると思う。

(木元委員) 年頭に当たっての所信を、このような形で作成したのは大変良かったと思う。今回、年頭に当たっての所信ということで、新生原子力委員会としては、今までの原子力委員会は何であったのか、原点に立って原子力委員会の存在理由や期待されている使命や役割等、自らを振り返り、もう一度見つめ直すところからスタートしなくてはならないと思う。それは、自主、民主、公開の原則であり、原子力基本法である。それらを踏まえながら今の時点に照らし合わせて、資料2の1ページ、1.基本姿勢の(1)に、この基本的な精神「民主的な手続きなくして権威なし」を肝に銘じて、専門家、一般市民、地方自治体、政策提言集団等の広くかつ多様なセクターに原子力の研究、開発及び利用に関する政策の提案や意見を求め、対話を重ねる「広聴活動」を重視していく、と記載した。これが今、世間から望まれていると思うし、強調していきたいと強く思っている。以前から言っているように、原子力委員会は見えなかった、活動がよくわからなかったということがあり、「見える、逃げない、行動する」ということを個人的に貫いていきたい。また、資料1の1.基本姿勢(2)の部分について、エネルギー自給率の向上に関心を持つ方が多いので、エネルギーの自給率の向上に原子力が寄与することについて書いた方が良いのではないかと。日本のエネルギー自給率は、原子力を入れて20%、原子力を入れないと4%となり、他国と比べて格段に低い。エネルギー自給率の向上に原子力は寄与しているということ踏まえたいと思っているので、できるならば所信に付け加えてもらいたい。細かいことはその都度やっていけばいいと思う。資料1、1ページ終わりの部分について、原子力のリスク管理についての記述が入ったのはとても良いことである。リスクを恐れず、リスクをリスクと見つめてどのように責任を持っていくかという姿勢が期

待されていると思う。

(前田委員) 電力事業の立場から原子力の推進、特に核燃料サイクルの確立に努力をしてきた。そのような立場から、資料1の所信にもいろいろ考えを盛り込んだ。原子力は、長期的には日本の基幹エネルギーであることがエネルギー基本計画にも明記されている。核燃料サイクルはそれを支えるものとして非常に重要であると思っている。それが、資料1の2ページ、2.重点政策目標にも書かれている。現在、日本の原子力はいろいろな困難に直面しているといわれている。例えば、昨年末の巻、珠洲からの撤退、プルサーマル計画の停滞、六ヶ所の再処理工場での施工不良、また、電力自由化やバックエンドの課題等、いろいろなところで原子力の難しさが大きく取り上げられている。しかし、よく見てみると、例えば新規立地点がうまくいかないのは個々の地点で地主の土地が取得出来なかったのが大きな原因である。これを持って、一般的に原子力が停滞しているとは思えない。プルサーマルについては残念ながら停滞しているが、これは安全性の問題というよりは、地域社会に対する説明責任が果たせなかったためである。相互理解については努力していかなければならないし、努力で解決できると思う。電力自由化とバックエンドについては、別途、経済産業省で審議中である。このようなことで、現在困難だと言われていることは、基本的に中期的、短期的な課題であると思う。原子力開発、核燃料サイクルをきちんと確立して、日本のエネルギー自給率を高めていくという長期的な目標から見ると、現在直面している難しさというのは、その長期的課題の前の課程でいろいろな障害にあっていると思う。その障害を乗り越えるためには、様々な施策を検討しなくてはならない。これは資料1の1ページ目の最後にあるリスク管理の考え方であると思う。原子力委員会の責務としては、長期の課題を常に考えながら、眼前の障害に対してどう具体的な対策をきちんと検討していくかが大切であると思う。眼前の障害に振り回されて、長期の目標を見失ってはいけない。私は世界原子力発電事業者協会の理事会議長をしており、世界の原子力状況を見てみると、アジアはもちろん、中欧東欧ロシア圏は原子力が非常に活発に活動している。アメリカや西ヨーロッパでも復帰の兆しがあり、原子力に対して従来の停滞ムードから脱してきたように思う。日本は現在難しい事態に直面しているように見えるが、原子力の将来は決して暗いものではないと思いながら、これから原子力長期計画の見直し等、与えられた役割に努力していこうと思う。

(近藤委員長) 木元委員から、自給率という言葉を入れた方がいいのではな

いかという提案があったので、これについて考えたいと思う。資料 1 の 1 . は、基本姿勢を述べるところの話であるため、ここよりも 2 ページ目の 2 . 重点政策目標に書いた方が良くと思う。基幹電源という話は自給率の担い手という意味を持っていると思うが、提案を受けてここに「長期にわたって我が国のエネルギー自給率の向上に寄与する基幹電源であり続けるように」と記載するのが良く思う。

(木元委員) あえて 1 ページの ( 2 ) に入れたらどうかと思ったのは、( 2 ) の上から 3 行目の「エネルギー資源を確保し、学術の進歩と産業の振興とを図り、もって人類社会の福祉と国民生活の水準向上に寄与すること」という部分にエネルギー自給率の向上が関わり、この後に「この目標を達成するためには」という部分に記載すれば良いと思ったからである。しかし、近藤委員長の話のあった部分でも良く思う。

(近藤委員長) 研究開発は、単にエネルギーの問題だけではない。

(木元委員) 言葉としての意味は狭いが、生かしたいと思う。

(近藤委員長) 木元委員の話を踏まえると、資料 1 の 2 ページ 2 . 重点政策目標の ( 1 ) に入るのが最も良く思う。

(前田委員) 自給率の向上と共に、地球温暖化防止の効果についても書き加えたらどうか。昨年、東京電力の原子力発電所が長期間停止したことに伴い、炭酸ガスの発生量が増加したということもあり、原子力の地球温暖化対策への寄与を強調しても良く思う。

(木元委員) それは環境特性の中に含まれていると思う。

(近藤委員長) 基幹電源というキーワードに説明を付け加えるという提案であるから、地球温暖化対策に寄与する原子力発電が長期にわたって我が国のエネルギー自給率の向上に役立つ基幹電源であり続ける、とすれば良いと思う。

(齋藤委員長代理) 環境特性はどうなるのか。

(木元委員) 今、関心を持たれていることなので、きちんと言葉にしておいた方が良く思う。

(近藤委員長) それでは、この件については、今述べたような修正を踏まえたものでとりまとめることとする。

### ( 3 ) 原子力関係予算総表 (速報値) について

標記の件について、藤嶋参事官より資料 3 に基づき説明があった。

( 4 ) 町委員の海外出張について

標記の件について、藤嶋参事官より資料 3 に基づき説明があり、町委員より発言があった。

( 町委員 ) F N C A ( アジア原子力協力フォーラム ) の中でも、ここ 3 年間で目に見える成果が出てきている。そのひとつのモデルとして、インドネシアでは核医学診断に必要なテクネシウム・99m の化合物をカナダから輸入しているが、それを自国で研究炉を使って生産する計画を有している。そのための技術は日本が開発したものであり、民間会社の協力を得て、プロトタイプの装置を設置することとなった。そのための式典があり、出席する。また、F N C A ワークショップで「生活の向上に役立つ原子力技術」という特別講演を行う。さらに、ハッタ研究技術大臣と会談を行う。インドネシアは 2015 年には原子力発電の 1 号機を運転開始したいという目標があり、日本も協力関係を強化していくことが必要である。

( 5 ) その他

- ・事務局作成の資料 4 の第 4 3 回原子力委員会定例会議議事録 ( 案 ) が了承された。
- ・事務局より、1 月 1 3 日 ( 火 ) に次回定例会議が開催される旨、発言があった。